
不思議の国のプリンセス

明花

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

不思議の国のプリンセス

【Nコード】

N8038Y

【作者名】

明花

【あらすじ】

ずっと好きだった人にふられてしまった水野アリス。公園で泣いていると、突然目の前に現れたのは・・・頭にうさ耳がある美青年だった。逃げようと試みるが結局つかまってしまう。そしてなぜか穴の中へと?!

prologue* (前書き)

はじめまして！

明花と申します（・o・、）＊

初めて小説をかくので、いたらない所もありますが．．

温かい目で読んでくだされば光栄です！◎

コメントやアドバイスなんかももらえると

泣いて喜びます（；|；）↑

それでは

『不思議の国のプリンセス』～prologue＊～

はじまりはじまり。

prologue*

今日

私、水野アリスは

『…ごめん。俺、お前の事そうゆう目で見れない』

ふられました。

中学の時から今まで、ずっと思い続けてきた人。
他の人になんか目もくれず見てきたのに。

「どーせ、私はただの友達ですよー！！！！！」

と、誰もいない公園で叫んでみる。

虚しい事ぐらい自分が一番分かってる。

けど溢れた涙はコントロールがきかず次々と頬を流れていった。

「・・・・・・・・馬鹿じゃん、私」

少し猫背気味になりながらブランコに座る。

あの人が悪いわけじゃない。

なのに、頭に思い浮かんでくるのは悪口ばかり。

背小さいし

頭悪いし

顔は中の下だし

鈍感だし

歌も下手

だけど

優しくて温かくて。

「・・・・・・・・やっぱり好きだよ。馬鹿・・・」

「アリス」

…え。

頭上から声がふってくる。

突然自分の名前を呼ばれたので、混乱し思わず硬直した。

ゆっくりと顔をあげる。

するとそこには銀髪に漆黒の瞳をした美青年が立っていた。
にこにこしながら私の事を見つめている。

男なのにこんな綺麗って思った人は初めてだ。
けどその美しい顔より、私の視線をとらえたのは、

「う、うさ耳・・・?!」

美青年の頭にあるふさふさの白いうさ耳だった。

なになに、え?

コスプレ好き・・・?

こんなかつこいい人が?

混乱し、私の頭の中には疑問だらけだった。

「何故、泣いているんですか・・・? 僕でよかったら話聞きますよ」

急に心配そうに顔をのぞきこまれ、
私の胸はどきんと高鳴った。

かかかか、可愛すぎる!

「だ、だいじょ、大丈夫です! 大丈夫!」

あわてて立ち上がる。
そして私が見たのは、ぴよこぴよこと動くうさ耳。
あー気持ちよさそう。
触りた・・・って、ん？

動く・・・？

「…あの、つかぬ事をお聞きますが。その耳ってカチューシャか何かですね？」

私がそう言うのと青年は少し驚いた様子だったが、すぐに元の笑顔に戻った。

よかったー。

やっぱり偽物だね。

そんなうさ耳が生えてる人なんて、この世に存在するはずないもん。

「やだなー、そんなの直に生えてるに決まって・・・って、ちょ、アリス?!」

逃げよう。うん。

私は青年の言葉を聞いた瞬間走り出した。

うさ耳が直に生えてるなんて人聞いたことないし。

もしかしたら高度な技術でつけたのかもしれないけど！↑
普通じゃないのは確かなわけで。

そういえば、さっき私の名前呼んでたような・・・。

怖い怖い怖い！

「アリスー。なんで逃げるんですか？」

いやいや、

変態に居合わせたら逃げろって私のお父様が言っていたので。

「変態ってなんですか！僕は変態なんかじゃ、」

「心の声読むなあああ！！！！」

ほんとになんなのよ、この人・・・！

まあ自慢じゃないけど足の速さには結構自信あるし、たとえば男の人でもそう簡単には追いつけないはず！

そう思っていた矢先。

私の腕が誰かに捕まれる。

急だったので、私は後ろによろめいた。

・・・・・・あ、倒れる。

「っ！！！！」

痛っ！

………くない。

「大丈夫ですか？」

またもや頭上からふってくる声。

私は青年にもたれかかる状態になっていた。

ふわりと鼻をつく甘い香水の匂い。

くらくらとしながらも口を開いた。

「・・・はい」

とっさに体をはなれる。

「そうですか・・・なら、よかった」

ほっと安堵の息をつき、やわらかく微笑む。

体の体温が高くなったのを感じた。

夕日に照らされたその顔があまりにも綺麗で、美しくて。

思わず見とれてしまった。

・・・って、だめ！

この人はへんたい、ヘンタイ、変態、HENTAI！

「助けてもらって有難うございます。私そろそろ帰らなきゃいけないので、これにてどろん」

よし冷静にいった！

・・・え、最後がおかしい？

あはは。それって空耳ってやつだよ★

今あったことは忘れよう。全力で。

そんな決意をし、美青年に背を向ける。

「それは、困ります」

後ろからそう呟く声が聞こえた。

その瞬間、

ふわりと体が浮く。

この状況を理解するには、私の頭じゃ無理みたいだ。
だって

なんで

見知らぬ人にお姫様抱っこされてんの——！！！！

「え、あの、そ、ちょ、え？」

混乱し変な言葉を連続する。

と、正反対に眩しいほど笑顔の美青年。

「何処かに行かれては困ります。僕と一緒に来てもらわないと．．．ね」

さっきよりも低く、妖艶な声に私は思わず肩を震わした。

「なにが困るんですか．．．？行くって、どこに．．．？」

なにか嫌な予感がする。

馬鹿な私でもそう感じた。

狼狽える私を見て、小さく笑うこの変態うさ耳青年。（でもイケメン）

感じ悪いなこのやろう！

「なぜ困るって、当たり前じゃないですか。だって貴女は．．．．．」

“アリス”なんですから」

「．．．は？」

口からまぬけな声がこぼれる。

いや、たしかに。

たしかに私はアリスですけど。

それになんの関係があるのよ！

「はい説明終了！じゃあ・・・行きましょうか」

「そ、そんなの説明になってないし・・・しかも行くってどこ、ぎゃーっ！！！」

1つ溜め息をついたかと思うと、急に風がふく。

2、3秒して青年が走り出したことに気付いた。

びゅんっと本当の風のように駆け抜けていく。

・・・どうりで、さっきすぐに追いつかれたわけだ。

まわりの景色はずっと変わらず緑ばかりが続いている。

て、景色なんてどうでもいい！！

「離してくださいっ！」

じたばたと手足を動かすものの、青年の体勢はまったくといって
いほど崩れない。

むしろさっきよりスピードが速くなってるような・・・。

いや。

ちょっと待て。

これは本格的にやばい展開じゃないか！

どどどど、どうすればいいの？！

うん落ち着け自分。

とりあえず状況を把握しよう。

好きな人にふられる↓公園で泣く↓うさ耳青年登場↓逃げる↓けど
捕まる↓そして今の状況

・
・
・
・

・
・
・

わかんねーよこんちくしょー!!!!!!!!!!

心の中でそう叫ぶ。

すると同時に青年の足が止まる。

お？心の声届いたかな？

「あの・・・」

「アリス」

ニコリと笑う。

キュンだよキュン。

「ちゃんと掴まっててくださいね？」

「は」

青年がジャンプしたかと思うと、急に視界が真っ暗になる。
かなりの風力に制服のスカートがめくれあがる。

え

もしかして

「・・・落ちてるうううう!!!!?」

落ちてるね。

これは落ちてる。

ずっと続く暗闇にさっきまでの不安が一気におしよせてきて、頭痛

がする。

これはもうどうしようもない。

お母さん、お父さん、それとお姉ちゃん。

私は穴の中でモグラさんと暮らすことになりそうです。

さよなら、私の人生・・・。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8038y/>

不思議の国のプリンセス

2011年11月23日21時58分発行